

国連防災世界会議パブリックフォーラム「巨大化する自然災害に備える技術者の役割」に参加しました(2015/3/17)

テーマ：自然災害に備える技術者の役割
 場所：AER30階 TKP ガーデンシティ仙台 ホールC

平成27年3月17日に、第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム「巨大化する自然災害に備える技術者の役割 一人・情報・技術のネットワークで生み出すカー」(主催：日本技術士会)が開催されました。災害科学国際研究所からは寄附研究部門のサッパシー アナワット准教授が参加し、「2013年にフィリピンで発生した台風30号(ハイエン)-技術士としての役割」というテーマで研究所の多面的な調査結果を報告しました。他に熊谷順子氏(元国土交通省防災課長)、松尾裕治氏(香川大学防災教育センター特命教授)、關尚彦氏(日本技術士会中部本部静岡県支部)、大元守氏(日本技術士会防災支援委員長/石巻市建設技術管理)らが東北、関東、四国における災害対応、復興まちづくり、減災害教育について報告しました。尚、セッション開催の前に中浜小学校(山元町)、千年希望の丘(岩沼市)、閑上日和山(名取市)の順で被災地巡検を実施しました。巡検の様子は河北新報に掲載されました。詳しくは、以下をご参照ください。

http://www.kahoku.co.jp/special/spe1148/20150318_10.html



被災地巡検の様子(岩沼市・先年希望の丘)



サッパシー准教授による講演の様子



シンポジウム全体の様子



パネルディスカッションの様子

文責：サッパシー・アナワット(寄附研究部門)